

平成28年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	人と文化を育むまちの形成
基本方針	生涯を通じて学びあうまち
基本施策名	生涯学習の推進

	所属	職名	氏名
作成者	図書館交流課	課長	丸山 高人
評価者	教育部	部長	山田 幸久

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	図書館を核とした交流学習施設の整備、機能の充実は、第1次総合計画の期間内に概ね終了する見込です。また、これらの施設を活用した図書館サービス、講座等の充実に努めています。
基本方針 (目指すべき方向性)	市民誰もが多様な学習機会を選択できるとともに、快適な学習環境が確保され、その学習成果が市民の心身の健康づくりに寄与し、家庭や地域に還元されることを目指します。また、図書館は、市民の多様なニーズに応え、質の高い情報を提供できる「情報センター」を目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H26	H27	H28	達成率	進捗状況	所管課
生涯学習講座数（回/年）	回	136	150		105	97	64.7	順調	生涯学習課
生涯学習受講者数（人/年）	人	19,971	21,000		21,547	30,558	145.5	順調	生涯学習課
図書館の年間利用者数（人/年）	人	391,140	440,000		379,225	414,307	94.2	順調	図書館交流課

施策指標の進捗状況と分析	中央図書館、豊科図書館の開館により利用者が大幅に増加したことから、後期計画では目標値を引き上げていました。平成28年度の実績値は、目標の94.2%ですが、新三郷図書館が平成29年度末に開館することから目標に近づくと考えています。また、第2次図書館基本計画策定に係る市民アンケート（H28.12）によると、図書館を利用しない市民の割合が約50%であり、この方たちへのアプローチが課題です。
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況				重点化		
				H26	H27	H28	H29	H30	合計	事業区分	新/継	終期		方向性	
1	0110625	交流学習センター等管理費	図書館交流担当			63,257,563	75,642,000			138,899,563	施設の管理運営	継続	期限なし	現状維持	
2	0110635	三郷交流学習センター整備事業	図書館交流担当			566,329,400	666,328,000			1,232,657,400	ハード（継続）	継続	H29	現状維持	
3	0110790	図書館管理運営費	図書館交流担当			113,626,623	122,886,000			236,512,623	定型業務	継続	期限なし	現状維持	
4	0110795	図書館資料収集事業	図書館交流担当			42,931,093	45,819,000	46,744,000		135,494,093	政策的業務	継続	期限なし	現状維持	○
5	0110800	図書館サービス事業	図書館交流担当			4,013,004	5,524,000	5,160,000		14,697,004	政策的業務	継続	期限なし	現状維持	○
合計						790,157,683	916,199,000	51,904,000		1,758,260,683					

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	生涯学習計画のためのアンケート（H28.11）によると、「図書館では市民の要望にあった情報サービスが行われている。」と一定の成果が得られています。本市の平成27年度の市民一人あたりの貸出数は、7.6冊で塩尻市（9.8）、飯田市（7.7）に次ぎ県下19市で3番目となっています。また、一人あたり蔵書数は、4.0冊であり、19市では14番目となっています。貸出数を蔵書数で除した図書の回転率は、191%で、19市で1番目であり、効率的な運営をしていると考えます。
重点化事務事業の考え方	図書館の設置及び運営上の望ましい基準（H24文科省告示第172号）において図書館は、貸出サービスのほかレファレンスの充実・高度化、地域の課題の解決に向けた活動の支援、多様な学習機会の提供、ボランティア活動の促進など様々な図書館サービスの提供を求められています。本市の生涯学習の「情報センター」、「学習センター」、「文化センター」として、図書館サービスのより一層の充実が必要なものです。
縮減・廃止事務事業の考え方	平成28年度から経常経費分の図書購入費を△5,000千円としています。経費の縮減には、開館日・開館時間の見直しなど、本市の図書館のあり方について市民の意見を聞きながら進めていく必要があります。
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出)	生涯学習推進計画等の策定の中で、図書館、交流学習センター等それぞれの施設の担う役割を明確にしていく必要があります。また、5館の図書館についてもそれぞれの地域の特色を生かした図書館像を第2次図書館基本計画の策定過程で検討していく必要があります。

平成28年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	人と文化を育むまちの形成
基本方針	文化を学び育むまち
基本施策名	芸術文化活動の振興

	所属	職名	氏名
作成者	図書館交流課	課長	丸山 高人
評価者	教育部	部長	山田 宰久

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	各交流学習センター等において企画するコンサートや映画上映会、講演会をとおして芸術文化の振興を図っています。また、市内在住の創作活動家と連携し芸術文化の発信のほか、若手音楽家の発掘、発表の場を提供しています。
基本方針 (目指すべき方向性)	郷土の歴史的・文化的遺産や伝統文化、古文書などを保存・継承し、それらを活用して創造的な芸術文化活動が活発に行われ、特徴ある芸術文化を全国に発信できるまちを目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H26	H27	H28	達成率	進捗状況	所管課
芸術・文化講座などの参加者数 (人・年)	人	12,243	12,500		14,382	14,844	118.8	予定以上	文化課
美術館・博物館などの入場者数 (人・年)	人	57,967	65,000		58,848	78,096	120.1	予定以上	文化課
芸術・文化活動者数 (人/年)	人	3,031	3,200		2,656	2,733	102.9	予定以上	文化課

施策指標の進捗状況と分析	
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費						事務事業の状況				重点化
				H26	H27	H28	H29	H30	合計	事業区分	新/継	終期	方向性	
1	0110630	交流学習センター等 事業費	図書館交流担当			5,409,692	8,119,000	5,588,000	19,116,692	政策的業務	継続	期限なし	現状維持	○
合計						5,409,692	8,119,000	5,588,000	19,116,692					

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	各交流学習センター等の自主企画での参加者のアンケート結果は、満足度81%で好評でしたが、市民の意識やニーズを把握し、子どもや高齢者、障がいのある方など、全ての市民が文化芸術に接することができるよう、費用対効果を検証しつつ、内容を充実させていく必要があります。
重点化事務事業の考え方	図書館を核とした複合施設「交流学習センター」は生涯学習活動の拠点に位置付けられています。成果発表、交流の場となる展覧会やコンサート等を継続的に開催することで、芸術家等の育成及び芸術文化の振興に繋げていくものです。
縮減・廃止事務事業の考え方	主な自主事業は、図書館交流担当（穂高交流学習センター）が中心となり企画し、各交流学習センター負担軽減を図るとともに事業を充実していきます。
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	複合施設の特徴を生かした事業により芸術文化の振興及び市民活動の支援を継続していきます。また、公民館・美術館・博物館との役割・機能を明確にするため、事業内容の精査をはじめ部内各課と調整する必要があります。